



愛知県議会議員  
すずき ただし  
**鈴木 正**

# 年頭の ごあいさつ



幸田町長  
おおすか いっせい  
**大須賀 一誠**

新年あけましておめでと〜いいます。町民の皆さまには、輝かしい新年をお迎えることと心からお慶び申し上げます。

昨年、額田郡幸田町と幡豆郡豊坂村が合併し60周年を迎えた記念すべき年でありました。その節目の年に、一年間を通じて多彩な記念行事を催し、皆さまとともに祝うことができましたことを本当にうれしく思います。特に、「NHKのご自慢」では、本町の特産「筆柿」を全国に広め、活力あふれるまち幸田を発信できたと思います。また、将来を担う子どもたちが郷土に愛着と誇りをもち健やかに成長することを願い、記念ソング「はっぴーらんど」作曲し、記念式典で発表することができました。これからもずっと♪歌い継がれることを期待しております。

昨年3月に島原藩主深溝松平家墓所が国指定史跡となり、10月には「松平家歴史ゆかりのサミットin島原」が開催され、本町と島原市、福知山市、豊後高田市の4市町で歴史と文化の交流促進の決意を確認してまいりました。今後、さらなる交流を深めてまいります。

また、昨年は町内の子どもたちが大活躍

新年あけましておめでと〜いいます。町民の皆さまにおかれましては、健やかに初春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、町村合併60周年の記念すべき年となり、町内各地でさまざまな記念行事が開催され、「夢のある心のかよう」活力あるまち「幸田町を町内外に発信できたもの」と確信しているところであります。

さて、わが国の経済状況は、相変わらず先行き不透明であり、町民の皆さんが景気

した年でもありました。「社会を明るくする運動の作文コンテスト」、「ものづくり創造コンテスト」、「新俳句コンテスト」などでたくさんの方の素晴らしい賞を受賞されたことは、町としても大変誇らしく思います。

昨年が町にとって節目の年でありましたように、わたし自身、町長2期目のスタートの年となり、町政を預かる責任の重さにあらためて身の引き締まる思いであります。諸先輩方により創りあげられた「幸せなまち、幸田町」を、より一層元氣なまち、安心して暮らせるまちを目指し全力で取り組んでまいります。

本年は、第5次幸田町総合計画の最終年であるとともに新たな第6次総合計画をまとめ上げる年であります。本町の喫緊の課題は、災害対策です。昨年の広島市の土砂災害や長野県北部地震などを教訓に菱池遊水地の整備やため池の耐震化など治水対策に積極的に取り組んでまいります。また、昨年各所に設置しました防犯カメラが犯罪を許さない町民の眼として犯罪の抑止に繋がっています。地域防犯ボランティアの皆さんと共に安全で安心なまちづくりに努めてまいります。また、東海道本線3駅、名

回復を実感するには、まだまだ時間を要するものと感じております。

さらに、昨年は、広島県における豪雨による土砂災害や御嶽山の噴火など、自然災害による多数の尊い人命が失われたことは記憶に新しく、自然の脅威を痛感させられるものであります。

本町においても、緑豊かな自然を残しつつ、皆さんが安心して暮らすことができるまちの実現に向け、防災・減災対策に取り組むことが重要な課題と感じております。

豊道路をはじめとする幹線道路、世界のものづくりを牽引する西三河などの産業立地の優位性を最大限に活用し、「新産業の創生」と「産学金学官連携、企業間連携」により新産業の誘致や人づくりに戦略的に取り組んでまいります。

人口急減と超高齢化が叫ばれる中、国立社会保障・人口問題研究所の分析では、本町は2040年においても子供を産み育てる若年女性が増加する数少ない都市として紹介されています。しかしながら、確実に人口減少と高齢化社会の波は本町にも押し寄せてきます。このため、まちの魅力にさらに磨きをかけるため幹線道路の整備、土地区画整理による市街地整備、企業誘致による雇用の確保。そして、子どもたちが健やかに成長し安心して子育てできる交流と居場所づくり、高齢者が生きがいをもち、健康で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。

結びに、新しい年が皆さまにとりまして、幸多き年となりますようお祈り申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。

また、今後、急速に進むであろう高齢化社会に伴う社会保障問題や不透明な景気を背景に頻発する犯罪の防止など解決すべき課題は山積しております。

こうした厳しい状況の中で新年を迎えましたが、数々の難局を乗り越えた先には、明るい未来が待っていると確信しております。本年が、皆さまにとりまして一層輝かしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。